

にも包括ケア便り

第3回情報誌トピック

1. 世界メンタルヘルスデー2023
2. 自治体の取組紹介①
(研修実践報告より)
3. 自治体の取組紹介②
(構築支援事業参加自治体)

1. 世界メンタルヘルスデー2023 アーカイブ動画公開！

#ココロに聞いてみよう！

～私たちの日常とメンタルヘルス～

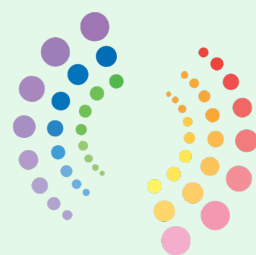
トークイベントアーカイブ動画配信！

厚生労働省では、「世界メンタルヘルスデー」である10/10に、10代から20代の若者世代へ向けたメンタルヘルスについてのトークイベントを開催しました。

イベントの様子を世界メンタルヘルスデー特設サイトにて公開していますので、ぜひご覧ください。

本動画では氣志團 團長の綾小路 翔さんと俳優・歌手の星乃 夢奈さんが共演し、ご自身のこれまでの人生や活動を振り返りながら、メンタルヘルスについて理解を深めていく様子や、今後の仕事への向き合い方や周囲の方への接し方などを考えるきっかけとなる内容となっています。

本動画を通じてメンタルヘルスに対する理解を深め、自分の心と向き合うきっかけにいただければと思います。



世界メンタルヘルスデー 2023
～つながる、どこでも、だれにでも～

特設サイト

https://www.mhlw.go.jp/kokoro/mental_health_day/

※アーカイブ動画は2024年3月29日までの期間限定公開です。



2. 自治体の取組紹介①（研修実践報告より）

広島県

密着アドバイザーの圏域担当制を構築

- 広島県では、R5年度より県密着アドバイザーによる圏域担当制とし、地域の実情を踏まえた対応ができるように支援体制を構築、次の取組を実施した。
- ① 圏域内市町にヒアリングを実施し、市町の特徴や課題を把握：
⇒県密着アドバイザーの助言を得ながら、圏域内の市町精神保健関係者にヒアリングを行い、課題を洗い出した。
 - ② 圏域内市町、関係機関が連携し措置入院患者に退院後支援を実施、終了後に評価を行う：
⇒支援終了後に、本人、家族、保健所保健師に退院後支援の評価アンケートを実施。事例ごとに支援及び事業全体を評価し、支援の質向上を図る。密着アドバイザーより俯瞰的な助言をもらう。

江戸川区

密着アドバイザーによるワーキング運営

- 江戸川区は行政と区内事業者の関係性が構築できていた。
- 一方、医療機関と地域の連携、精神障害に対する理解促進に課題があり、地域課題を共有・解決する場の設定のため、ワーキンググループを設立した。
- 現在は普及啓発、医療連携、住まう（不動産）、ピアサポートに関する4つのグループが活動しており、それぞれ密着アドバイザーが中心となって活動している。
- 将来的には、課題解決のためのワーキンググループを増やしつつ、グループが単体で動けるよう、持続可能な仕組み作りを目指す予定。

広島県、江戸川区の発表は、以下のポータルサイトでアーカイブ動画・資料を公開しています。ぜひご覧ください！
「にも包括構築担当者のための研修」

<https://www.mhlw-houkatsucare-ikou.jp/achv/366>

志木市

健康増進の取組と相談支援体制の構築

- 志木市では顔の見える相談体制を整備し、健康増進やメンタルヘルスへのアプローチに取り組む。
- 個別の課題から地域診断を実施し、地域課題の明確にするとともに、予防的視点をもって保健事業を実施した。
- このような地域課題解決のためにプロジェクトとして立ち上げることで、庁内関係課、庁外関係機関と協議しながら運営体制を構築している。

和歌山県

入院者訪問支援事業の取組紹介

- ピアサポーターや地域移行促進事業等により、従前から民間の委託事業者が県内の精神科病院で取り組む下地があったこと、ピアサポーターの活躍の場を設ける機運があったことから、R5年度から入院者訪問事業を実施。

【工夫している点】

- どの自治体でも**実施可能な事業体系**とする。
- 福祉関係職員やピアサポーターで完結せず、事業を通して精神科についての**地域の理解を促進**する。
- 訪問支援員の面会が「**行政職員の面会**」と同等であることをメッセージとして伝える。

【次年度に向けた検討項目】

- 医療保護入院者に向けた、**リーフレット**作成
- 事業の**愛称**を検討
- 推進会議の実施を検討（有識者選定等）

【ポイント】

委託事業者と病院が対立する構造とならないよう、訪問支援の下地づくりは丁寧に行う必要があるとともに、県は病院や事業所、訪問支援員となる人材の理解促進が重要である。

- 特に重要な事業として、保健医療福祉が連携した地域移行支援、地域定着支援、ひきこもり支援を柱として、対象者のニーズに沿った、柔軟な支援を組み立てることを目的とする「志木まると地域支援プロジェクト」を実施している。
- 「にも包括」の対象者は精神障害に限定せず、メンタルヘルスの対象者としてあらゆる住民が対象となるため、こうした事業を通して、対象者がどこの窓口にも相談しても支援につながるよう、各機関が連携しながら地域の相談支援体制を整備している。

神奈川県

心のサポーター養成事業の取組紹介

- 心のサポーター養成事業実施により、R3年度～R5年度で合計約2,000人の心のサポーターを養成した。

【R3～R4年度 工夫した点】

- 市町村との協力**：安価な会場確保、多数の受講希望者につながり、政令市は研修実施のノウハウを取得。
- 企業との連携による職域での養成**：行政の負担を最小限に。
- 神奈川県独自のアンケート実施**：活動状況把握のため、半年後に再度アンケートを実施。

【令和5年度 工夫している点】

- 会場の定員数の増加**：昨年度の2倍以上に拡大。
- ゲートキーパー養成研修との同日実施**
- 職域連携の幅を拡大**：新規企業や大学と連携し、R5年度の養成数の約3割を占める。

約**800人**を養成した。

【ポイント】

今後は3年間のモデル事業の中で工夫してきた手法を進め、より多くの県民が心のサポーターとなるよう、積極的な取り組みを進める。

志木市、和歌山県、神奈川県の発表は、ポータルサイトでアーカイブ動画・資料を公開しています。ぜひご覧ください！
「知ってよかった！精神保健に関する相談支援体制の整備と普及啓発 ～法改正施行に役立つ最新情報と取組事例～」
<https://www.mhlw-houkatsucare-ikou.jp/achv/332>

3. 自治体の取組紹介②（構築支援事業参加自治体）

八王子市

- 7月に都精協の会長でもある平川病院院長の発案で市内全精神科医療機関・診療所を対象とした「にも包括」の構築に向けたキックオフ会（研修会）を開催した。
- 市長のビデオメッセージから始まり、庁内関係各課担当者が出席する等、市全体で一丸となって取り組んでいくことを確認した。
- 9月に「第3回地域精神保健医療福祉実務者連絡会ワーキンググループ」を開催し、今までに出た課題を元に今後の方向性を検討した。
- 「にも包括」構築と重層的支援体制整備事業の両者をリンクさせながら推進しており、保健部局と福祉部局の連携が密に取られている。11月にキックオフ会の流れを受け、市のモデル事業への協力について、医療機関を対象に説明会を実施した。

厚生労働省社会・援護局 障害保健福祉部精神・障害保健課 担当：土屋、名雪、関根、牧野、猪苗代、渋谷
令和5年度精神障害にも対応した地域包括ケアシステム 構築支援事業事務局 担当：橋本、東海林、吉野、島、鈴木
(PwCコンサルティング合同会社)
電話：090-6049-0064 メール：jp_mental_health@pwc.com